

消防団の活動について

(質問) 消防団は、それぞれの仕事を持ちながら、さまざまな災害現場において昼夜を問わず活動していただいている。近年では、認知症と思われる方の徘徊による行方不明者の捜索も増加傾向にある。そこで、消防団員が徘徊などの災害によらない行方不明者の捜索を迅速に行えるような報告体制を構築すべきと考える。また、

災害によらない行方不明者の捜索活動中の災害を公務災害と認め、費用弁償の対象とすべきと考えるが見解を伺う。

(答弁) 発生原因が認知症による徘徊などの場合において、自治会長から捜索依頼があれば、直ちに活動を開始し、しかるべきタイミングで上司への報告を行うことを一目瞭然で分かるように報告体制を見直す。災害によらない行方不明の捜索活動中の災害は、公務災害として補償し、費用弁償については検討する。

その他の質問 ○子育て支援

朝食と学力向上について

(質問) 毎年実施される全国学力・学習状況調査において、朝食を毎日食べる子どもほど学力が高い傾向にあるという朝食と学力の相関関係がこれまで一貫して指摘されている。平成31年度の小学生国語における平均正答率は、朝食を「毎日食べる：65.6%」「どちらかといえば食べる：56.3%」「あまり食べない：49.6%」「まっ

たく食べない：45.3%」と、朝食を取る頻度が低下するほど平均正答率も低下している。これは全ての学科、中学生においても同様である。このような中、本市はどのように考え、取り組んでいるのか。

(答弁) 学力向上に向け、また生活習慣としても、朝食の喫食率を高めることは大変重要であると認識している。現在策定中の次期教育振興基本計画でも食育を基本事業に位置付け、学校教育活動全体で取り組み、食育の充実を図っていきたい。

小中学生の通学について

(質問) 通学距離は、小学校は半径4km、中学校は半径6kmの範囲内で決めるが、経路によって通学時間に差が出ることが推測される。通学時間も調査してはどうか。また、令和元年度の小規模校12校のうち11校が徒歩10分圏内に公共交通機関の乗り場があり、移動が手段の選択からサービスの選択、いわゆるMaaS

の時代になりつつあるが、通学への既存公共交通機関の利用を視野に入れてはどうか。

(答弁) 通学時間は緊急時連絡先などでおおむね把握しているが、個別には調査していない。本市では既存公共交通機関の利用に関し、整備状況や保護者の交通費負担、利用上の安全性確保、部活動や放課後の活動などに課題があると捉えており、通学手段は各学校で徒歩または自転車と設定している。

その他の質問 ○国際都市として ○最新教育 ICT環境で加速する鈴鹿

白江集合保留地の活用について

(質問) 白江集合保留地に福祉を核とする複合施設について、これまでの協議経過と今後について問う。また、末松市長の考えは。

(答弁) 平成23年2月に白江保留地土地利用庁内検討会を立ち上げ、平成28年度には白江保留地複合施設調整会議を開催した。会議の中で、福祉関連施設を中心とした複合施設の

整備を進めるとの一定の方向性が示されたことから、白江保留地土地利用庁内検討会を解散し、今後は健康福祉部が主体となり関係する部署と協議を行いながら、子育て、障がい者支援、総合相談窓口などの機能を有した施設を中心に検討を進めていきたい。また、総合計画2023の後期基本計画期間中に用地取得を進め、複合施設の基本構想をまとめていきたい。

その他の質問 ○土地開発公社の役割 ○災害拠点病院